# 第4回 雷気のふるさと

### 総評

「電源地域」という限られたエリアの中でこれほど美しい風景が撮影できるという ことは、日本の自然環境がいかに恵まれているかの証左でもあるだろう。

このコンテストの意義をよく理解して応募された方々の努力も感じられた。

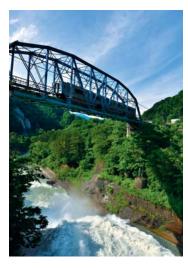
質の高い写真作品が数多く最終審査まで残ったことも、4回目を迎えて応募の裾 野が広がってきたことを裏付けていると思う。

人を含む生き物や自然環境が共に健やかに在るという有難さを感じつつ、豊かな 自然と文化にあふれたこの国に住むことの幸せを、写真でもう一度見つめなおしてみよう。

そこに「電気のふるさと」という、いままで気付かなかった大切なものが、自然や風景や暮らしなどを通して 見えてくるに違いないから。









# 「急流を渡る」 水島 脩行さん

撮影地:長野県小谷村

急流の鉄橋を渡る電車の音が聞こえて きそうだ。新緑の山、青空と雲、水流それ ぞれの色彩コントラストも素晴らしい。スケ ール感にも動感にもあふれた、稀に見る 風景写真だ。

自然と人間のエネルギーの交差を捉え た写真と言ってもいい。縦位置で余分な 要素を省き、的確に狙いを描出した画面 構成が際立っている。





### 「晩秋の観音沼」 住 由子さん

撮影地域:福島県下郷町

実に見事な風景写真。地上の実景と水面への 映り込みの両方で、秋の雑木林の美しさを表現 し、深いピントで描写された木立の繊細さにも飽き させない魅力がある。

ただ惜しむらくは画面上下のバランスが拮抗し て、やや単調に感じられること。幻想的な水面部 分をもう少し多くとり入れたらさらに良くなった。



穏やかに暮れなずむ棚田の景色に、日本の原 風景を見る思い。

太陽が山の端に隠れたところを狙ったのと薄曇 りの気象が幸いして、コントラストが高くなりすぎず にしっとりとした山里の空気感が再現できた。

安定した構図のうまさ、暗部がつぶれない露出設 定など、作者の撮影技術も成功を支えたといえる。



## 「悠久の大地」 中村 昭夫さん

撮影地域:三重県熊野市

審査委員長 板見 浩史さん

1952年、福岡県生まれ。法政大学卒。写真専門誌『フォトコンテス ト(現フォトコン)』誌の編集長を約20年務めた後、2004年独立。 写真関連の企画・制作会社Jophy Communications代表。

フォトエディターとして多くの写真賞やコンテストの審査を担当。 写真関係者でつくる俳句会「一滴会」同人。

2007年11~12月、NHK教育TV「趣味悠々」で『カシャッと一句! フ ォト五七五』の講師を担当、2009~2012年NHK衛星第2の同名 番組で審査員を務める。

日本写真協会会員。NPOフォトカルチャー倶楽部専務。

